

令和5年度 事務事業マネジメントシート

		事務事業No.		9-	2
事業名	発達支援事業	会計	款	項	目
		一般	3	2	1
政 策	2 次世代を育むために	課名	子ども家庭課		
施 策	2-1 子育て支援の充実	係名	発達支援室		

1 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	発達に支援が必要な子どもとその保護者。支援に携わる者	目的（対象がどのような状態になっているか）	子どもの個々の発達に応じて、子どもやその家族が充実した社会生活を送ることができるようになっている。 また、個のニーズに応じた適切な支援が行える人材が育成されている。
事業内容		発達支援室（福祉）・教育・保健がそれぞれ連携し、発達が気になる子への早期からの途切れのない支援を行う。 実施内容：発達に支援が必要な子どもに対して療育事業の実施や個別の指導計画を作成。また、発達相談・巡回相談においては、心理士と連携し、保護者への支援、専門機関との情報提供等の連携を行う。各園・小中学校にはCLM推進委員を置き、CLM巡回研修や推進委員研修会を実施し、気になる子への対応の仕方など保育士・教員のスキルアップを促す。		

2 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標		指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	目標方向	令和7年度（目標）	
	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
				令和4年度（決算）		令和5年度（決算）		令和6年度（予算）	
全体事業費（千円）A+B				30,445		29,968		25,596	
財源 内訳	直接事業費A			1,351		874		1,914	
	うち一般財源			1,351		874		814	
人件費（千円）B				29,094		29,094		23,682	
内訳	一般職員（人・千円）			4.22	27852	4.22	27852	3.4	22440
	臨時職員（人・千円）			0.69	1242	0.69	1242	0.69	1242

3 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善＜※主管課長記入＞

（1）事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		町関与の必要性	A 町が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	Ⅲ 要改善（少しでも事業内容に改善の余地があり取り組むべき）					

（2）事務事業の業務改善について

①R5年度の改善計画	父、母が参加しやすい交流会の仕組み、体制づくりに取り組む。	③取組の課題	多くの父母が参加するには託児について配慮が必要である。
②R5年度に実施した取り組み	発達に課題のある子を持つ保護者同士が気軽に話し合える懇談会を開催した。また、父親が参加できる企画を検討した。	④今後の改善計画	父、母が参加しやすいよう、休日等に行う交流会の仕組みと体制づくりの検討を行う。